



体験教育企画 代表
藤澤安良さん

民泊体験は「地域の生き残り戦略」

現在、ファストフードの売上げが伸びる中、魚介類や果実、野菜の消費量が大幅に減り、多くの食糧を海外に依存しています。また、1世帯当たりの米の年間消費額がパンに負けるなど、国内で生産しているものを消費する食文化を再構築しなければなりません。

そのためには、土を触ったことがない、農産物がどのようなようにできているかも分からない都会の子どもたちに対して、民泊体験を通じて、作物の作り方、料理の仕方、農家の苦労などを生産者自らが教え、農村への正しい理解を深めてもらうことが必要です。

このような交流を通し、子どもたちは食糧自給率の向上や危機的な農業後継者不足、過疎などの大きな課題が見えてきて、地域を支えてくれるファン（応援者）となります。そのことがまさに、過疎化が進む「農村の生き残り戦略」になると思います。

民泊Q&A

- Q. いつから民泊を受けるの？
- A. 平成28年度から県内小学校、平成29年度から修学旅行受入開始を目標に、民泊家庭の募集や研修、営業活動を行います。
- Q. 農家ではないのですが、受け入れできますか？
- A. 農家、非農家は問いません。
- Q. 民泊受け入れをするといくらもらえるの？
- A. 受け入れ内容にもよりますが、1泊2食で子ども一人当たり5,000円程度です。（1回につき、子ども3～5人を受け入れます。）
- Q. 子どもたちが怪我をした時などに備えて傷害保険に加入したほうが良いですか？
- A. 傷害保険は協議会が一括して加入します。

三河内子ども農村交流協議会
事務局長 奥田 順紀さん

比和町三河内地域では7年前から、農家民泊体験の受け入れを行っています。「見知らぬ人の家に泊まって、一緒に暮らす」という非日常の体験を終えた子どもも



民泊体験の意義「一緒にやりましょう」

自然と寄り添う里山の生活と、そこに生きる人の英知には人を育む力があると、子どもたちを見て実感します。学校だけが教室ではなく、教科書だけが教材ではありません。

21世紀の日本を担う未来ある子どもたちのために、今、庄原の「人と素材（資源）」が大きく貢献できることを、この民泊受け入れ体験を通じてぜひ知ってほしいと思います。

皆さんもぜひ、一緒に民泊受け入れをしてみませんか。

民泊受入家庭を募集

庄原市さつやま体験交流協議会では、修学旅行など体験型教育旅行を誘致するため、子どもたちの民泊体験を受け入れてくださる家庭を募集しています。子どもたちと交流し、心あたたまる感動体験をしてみませんか。

今後、民泊への不安を解消するため、研修や視察、モニターツアーなどを予定しています。要望があれば自治会など、各集落に向いて説明会を開きます。興味のある方や詳しい話を聞きたい方は、お気軽に協議会事務局へお問い合わせください。

問い合わせ

庄原市さつやま体験交流協議会事務局（庄原市観光協会内）
☎0824・75・0173



曾根徳光さん

福光勇蔵さん

感動体験してみませんか

庄原市観光協会



近年、コミュニケーションをとることが苦手な子どもたちが増えています。こうしたコミュニケーション能力の上には「体験」や「交流」が効果的であるとされており、子どもたちの健全な成長を図るため、全国的に農村での民泊体験が増加しています。そのため、修学旅行など昨今の教育旅行は、「観光施設を見てまわる旅行」から「民泊を

民泊体験が必要とされる理由

近年、コミュニケーションをとることが苦手な子どもたちが増えています。こうしたコミュニケーション能力の上には「体験」や「交流」が効果的であるとされており、子どもたちの健全な成長を図るため、全国的に農村での民泊体験が増加しています。そのため、修学旅行など昨今の教育旅行は、「観光施設を見てまわる旅行」から「民泊を

民泊体験を地域振興に

民泊体験は、地産地消を心がけることによって、体験プログラム、宿泊、食事、土産物と、ほぼ全額が地域に落ちて、経済波及効果が高いと言われています。

含むありのままの農村生活を体験する旅行」に変わりつつあり、そのニーズはますます高まっています。

民泊ってどんなもの？

体験交流民泊は、交流とコミュニケーションが目的であるため、民泊のようなお客扱いにはせず、家族の一員としての作業を手伝わせ、しっかりと話しをしてあげてください。

食事は地産地消にこだわり、庄原産の野菜の煮物、和え物、酢の物などのメニューを共同調理するなど、普段どおりの暮らしの中で子どもたちと一緒に過ごします。

豪華な料理を作り、準備、片付けをしてあげるなど、至れり尽くせりはしないでください。子どもたちを楽しませよう、喜ばせよう、いい思い出をつくらせようとおもうと考える必要はありません。

地域が元気になる！

民泊型修学旅行の誘致に向け始動 「民泊受け入れ家庭を募集」

商工観光課にぎわい観光係 ☎0824・73・1179

市と観光協会は、昨年度策定した「庄原市観光振興計画」に基づき、本市の強みである豊かなさつやま資源を活用した観光交流を推進し、地域を元気にしていこうと、※体験型教育旅行を誘致する「庄原市さつやま体験交流協議会」を10月9日に関係者と設立しました。

今後、本協議会では、体験型教育旅行の受け入れ条件となる民泊家庭登録100軒の確保を進め、修学旅行をはじめとする体験型教育旅行の誘致に取り組みます。

※体験型教育旅行とは
農村の一般家庭に泊まり（民泊）自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむプログラム。広島県では各種法令の規制緩和により、簡易宿所営業許可などは必要なく、協議会への簡単な民泊家庭登録で始めることができます。

北広島町では、平成20年度から民泊体験の受け入れを始め、現在町内に約120軒近くの民泊受け入れ家庭があります。平成25年度は22校の学生（1100人以上）を受け入れ、地域内消費額は3700万円にも上ります。

また、地域外からの子どもたちを受け入れることによって、地域住民の生きがいや地域への誇りが生まれ、さらに地域コミュニティも良くなり、地域の元気づくりにも役立っています。